

西大寺の芭蕉の句碑

西大寺文化資料館に、東京の中学校の先生が西大

寺にある二つの芭蕉の句碑をたずねてくれました。

一つはお教えしましたが、他の一つ方はわからずお
気の毒でした。早速調べて連絡しました。

その一つは、「さまさまのこと思い出す桜かな」
の碑で、西大寺中一丁目（新町）の真言宗普門院の
境内にあります。西村燕々の『吉備俳諧略史』に、
「文政十一年春、西大寺の一鳳・雨石・翠兄・蕉翠
ら普門院境内に桜塚を建つ」とありますが、三浦叶
先生は、建てられた年代がさだかでないと言われま
す。目の粗い、海水に侵蝕されたような大きな石に
刻まれています。西川の流れに近く、静かな寺院の
中でなかなか風情があります。早朝歩く方は、境内
の淡島さまに参詣されてご覧になり、なつかしい「さ
まさまのこと」を「思い」だされてはいかががでし
うか。

他の一つは、「毛ごろもにつつむでぬくし鴨のあ
し」で、安政二年八十五才で歿した俳人・武田樗江
が建てた句碑で、これも亦年代は分かりません。

樗江は、現在鴨越で弁柄を製造する合資会社昭和
鋳粉所を経営されている武田さんの曾祖父です。句

碑は自家の墓所から西大寺の水源地へ移され、さら
に久保東郷土民芸資料館がつくられたとき、設立者
で館長の片岡さんが、同館の庭に置かれました。つ
やのある黒い堅そうな石に刻まれ、裏面には樗江と
署名が彫られています。平常館は閉っています。が、
庭には入れます。場所は窪八幡宮の参道南端の大鳥
居に近くすぐわかります。参拝の折や散歩のときに
見せていただいたらと思います。

句碑はどちらも、吉井川に位置した西大寺が商業
の繁栄した幕末、台頭した町人文化華やかに咲いた
時代、俳諧が盛んであったことを示しています。西
大寺の先達の方々が遺された貴重な文化財です。